

本日は、皆様の関心が大変高い年金のお話をしたいと思います。

皆様もすでにご承知の通り、民主党が最初に出した年金案というのは、いくつかの問題点がありました。

一つ、消費税の負担がどんどん重くなり、将来は「17.1%」の増税になること。

二つ、平均年収が420万円以上の方々は、現在もらっている年金額より下がること。

三つ、低所得者に支給するとして最低保障年金7万円は、40年後でないとももらえないこと。

などなど、誰が見てもおかしい内容でした。さらには、自営業者の方などは保険料が今の3倍以上になります。

当然、「ふざけるな！」ということになると思います。

そこで、やっと民主党も「社会保障と税の一体改革」で改革案を出してきましたが、なんとその内容は公明党が従来から提案していた案、そのものを出してきたのです。今まで散々批判を繰り返してきたわが党の案を修正して出してきたことに対して、もうあきれてモノも言えません。

そこで現行の「年金100年安心プラン」は大丈夫なのか？ということですが、皆様のなかにも「100年はウソだべ」と思っている方も多いと思いますので、本日は再度確認をしたいと思います。

2004年に、公明党の坂口力さんが厚生大臣だったときにこの案を作りました。何故作ったのか、少子高齢化社会に対応させる改革が必要だったからです。これが進むと騎馬戦型から肩車型に、3人で高齢者を支える時代から1人で1人の高齢者を支える時代になる。このまま放っておくと、もらえる年金がどんどん減っていく、そして、払う保険料はどんどん上がっていく、そこで当時の改革案では、今後の年金は少しずつ下げますが、厚生年金のモデルパターンの夫婦と子ども二人でサラリーマンを40年務めたという前提では、年収の50%は返ってくるようにしました。一方払う保険料は徐々にあがるのですが、厚生年金は会社と加入者で半々の折半ですから、2004年の段階では年収の14%、それを徐々に上げて2017年に18.3%で打ち止めとし、それ以上は上げないしました。

国民年金もそうです。保険料が当時13900円、それを少しずつ上げて、現在は約15000円です。

最終的には2017年で16800円、そこで値上げを打ち止めとすることにしました。そのように法律に書き込みました。そして、いよいよ本格的な高齢社会が始まる2025年頃から積みあげた年金基金を取り崩し始める、そうすれば100年持ちます、というのが100年安心プランです。

また、2004年の改革では今後、人口がどうなっていくかもきちんと試算して作られています。

若い人が減って、保険料がこのくらいしか集まらないけど、これだけ支給できるという、いわば最悪のケースを想定して作られたのが「100年安心プラン」なんです。

更に言うと、このプランは5年ごとに検証して見直していこうとなっています。2009年に検証したところ、出生率は最悪の想定をしていて1.26で計算していましたが、それが1.31に逆にあがりました。積立金は国が運用して5年で9兆円の黒字になっています。そういうことを総合的に考えれば、年金は破たんなどしていないことは明白です。テレビの評論家、経済学者などが盛んに「年金は破たんしている」と言っていますが、彼らの想定している経済成長率は-0.9%なのです。

1~2年はマイナス成長もあるでしょう。しかし、20年間-0.9%の経済成長率が続けば、年金が払えないどころではなく、日本が滅びてしまいます。そういう想定で批判しているのです。しかし、テレビをみている国民は理解しにくい、だから、大学の教授が言っているのだから、間違いないと思われてしまうのですが、「年金は決して破たんしていない」と、はっきり申し上げます。

このように公明党は年金に対しても将来を考え具体的な取り組みをしてきました。このたびも低所得者の方の基礎年金「25%加算」と、受給資格期間を10年に短縮することを提案する方向であります。

政策実現政党の公明党に皆様の力強いご支援を引き続きたまわりますよう、心よりお願い申し上げます。